



あとがき



2013年6月号 (No.105) より編集委員長を務めてきましたが、今号を最後に委員長を交代致します。もともと私が核データ (の本流) とは分野が異なることもあり、勉強をしながらの4年間でした。滞りなく核データニュースを発行できたのは編集委員の方々のおかげであり、何よりも編集委員からの依頼を快く引き受けてくださった執筆者の皆様のおかげです。この場を借りまして感謝いたします。次号からは柴田恵一さんに編集委員長を引き受けていただきます。

核データニュースの編集を長く続けておられた石橋貞子さんが今号を最後に編集から離れます。バックナンバーを遡ってみると2004年6月のNo.78から石橋さんの名前があとがきに見えます。13年間協力していただいたこととなります。長きにわたり核データニュースを支えていただきありがとうございました。

2004年は私が日本原子力研究所に中途採用で入所した年でもあります。その時の原研はすでに核燃料サイクル開発機構との統合 (2005年10月に原子力機構へ) が決まっています、その準備段階という時期でした。この13年間の核データにおける大きな出来事は2010年のJENDL-4.0の完成でしょうか。また実験施設としてJ-PARCが2008年に完成したのも大きな出来事でしょう。原子核関連としては、理研においてRIBFが2006年から稼働を始め、大きな成果を出し続けていることが挙げられます。私との研究の関係でいえば113番元素が昨年2016年にニホニウムと認定され、日本発、アジア初の命名に至ったことを挙げます。この実験は理研で2003年9月に実験を開始しましたが、1イベント目が出たのが2004年の7月です。やはり今から13年前のこととなります。この13年間は実験代表者の森田浩介さんは勿論のこと、実験に関わった共同研究者 (私も含めて) もイベントはなかなか出ず、また米ロとの命名権競争となってしまう刺激的な期間だったと振り返ることができます。

核データニュースは昨年2016年に核データニュースの前身であるJNDCニュースから数えて50年、つまり半世紀となりました。次の半世紀に向けてこれからも原子力・放射線・原子核の基礎データとして工学的にも理学的にも重要な役割を担ってほしいと思います。

小浦 寛之 2017年2月

日本原子力学会核データ部会

核データニュース編集小委員会

喜多尾憲助 (元放医研)、井頭政之 (東工大)、石川 眞 (原子力機構)、
岩本 修 (原子力機構)、中川庸雄 (元原子力機構)、渡辺幸信 (九大)、
山野直樹 (元福井大)、大塚直彦 (IAEA)、中村詔司 (原子力機構)、
小浦寛之 (委員長、原子力機構) [編集] 石橋貞子